箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字(の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	の部分)
	1	測定項目	規格値	測定基準	測定項目	規格値	測定基準
3-2-6-7-1 アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	I -25	基準高▽	個々の測定値(X) 中規模以上 ±40 個々の測定値(X) 小規模以下 ±50 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は平均測定値の平均中規模以上 - 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は平均測定値の平均小規模以下 -	1.3 大下を で	基準高▽	個々の測定値(X) 中規模以上 ±90 個々の測定値(X) 小規模以下 ±90 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は平均測定値の平均中規模以上 +40 -15 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は平均測定値の平均小規模以下 +40 -15	1.3 1.3 1.3 1.3 1.3 1.3 1.3 1.3
3-2-6-7-2 アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	I -27	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -55 個々の測定値(X) 小規模以下 -64	1. 3次元データによる出来形管理による出来を用いてを用いたといてが、はまれて、一切には、一点をには、一点をには、一点をは、一点をは、一点をは、一点を実施が、一点を表表します。。 1. 3次元データによる出来形管理には、一点をには、一点をには、一点をには、一点をは、一点を表表を実施が、一点を表表を実施が、一点を表表を表表します。 2. 4. 2 は、一点を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -54 個々の測定値(X) 小規模以下 -63	正は省略する。 1. 3次元デ理では 3次元デザータレーでは 3次元 1 2 2 2 2 3 3 3 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字	の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	字の部分)
3-2-6-7-3 アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	I -29	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -55 個々の測定値(X) 小規模以下 -64	1. 3次元データによる出来形管理にたきなるといって、まないでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、ないの		個々の測定値(X) 中規模以上 -54 個々の測定値(X) 小規模以下 -63	1.3次元データによるによるによるによるに、まるに、まるに、またのでは、は、またのでは、また
3-2-6-7-4 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	I -31	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -37 個々の測定値(X) 小規模以下 -46	1.3次元が開来形管理にたきない。 1.3次元が明知を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを主きを		個々の測定値(X) 中規模以上 -36 個々の測定値(X) 小規模以下 -45	1.3次元がの地上型レータによる出来を管理にを出来を大力を出来を出来を出来を出来を出来を出来がき出来がきままで、地上型を理要を実施をはませます。という。 2. 世界のでは、1 は、1 は、2 は、2 は、3 に、4 に、4 に、4 に、4 に、5 に、4 に、5 に、5 に、5 に、5 に、6

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字	の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	字の部分)
3-2-6-7-5 アスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	I -33	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 小規模以下 -26	1. 3次元データによる出来形管理においてを用いたといったという。 出来形管理を実施して、計算を実施を実施を実施を実施する場合で、計算を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を表して、自己をものものものものものものものものものものものものものものものものものものもの	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 小規模以下 -25	1. 3次元データによる出来形管理においた。 地上型レーザ(舗装工実施工工を 用いた出来できると、 編合、計測を主きる場合には 地来では、 の度を実施する場合には のまれている。 2. 個々の計画値の規格では の計画が含まれている。 3. 計画はで標本の を実施する。 3. 計画はででは の計画ででは のは、 のは、 のででは のででは のでででは のでででででする。 4. 厚高値と のでででする。 4. 厚高値と のでででする。 4. 厚高値と のでででする。 5. は、のでででする。 4. 原高でをでする。 5. は、のでででする。 6. は、のでででは のでででする。 5. は、のでででする。 6. は、のでででする。 5. は、のでででする。 6. は、のでででする。 5. は、のでででする。 5. は、のでででする。 5. は、のでででする。 6. は、のででは のででする。 5. は、のでででする。 5. は、のでででする。 5. は、のでででする。 6. は、のででは のででする。 5. は、のでででする。 6. は、のでででする。 5. は、のでででする。 6. は、のでででする。 6. は、のでででする。 6. は、のでででする。 6. は、のでででする。 5. は、のででは、のででは、のででは、のででは、のででは、のででは、のでででする。 6. は、のででは、のででは、のででは、のででは、のででは、のででは、のででは、ので
3-2-6-7-6 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	I -35			1. 3次元データによる出来形管理によいて「タによった」」といって、は、空間では、大きな、では、では、大きな、では、では、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな			1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザー(舗装工事に対して、一時では、一方には、一方には、一方には、一方には、一方には、一方には、一方には、一方に

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字の	の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	の部分)
3-2-6-8-1 半たわみ性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	I -36	基準高▽	個々の測定値(X) 中規模以上 ±40 個々の測定値(X) 小規模以下 ±50 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は平均測定値の平均中規模以上 - 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は平均測定値の平均小規模以下 -	1.3次元データによった。 おいてデザリーのでは、 おいてデザリーのでは、 出来では、 出来では、 出来では、 出来では、 はないではないでは、 はないではないでは、 はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	基準高▽	個々の測定値(X) 中規模以上 ±90 個々の測定値(X) 小規模以下 ±90 10個の測定値の平均(X10)*面管 理の場合は平均測定値の平均 中規模以上 +40 -15 10個の測定値の平均(X10)*面管 理の場合は平均測定値の平均 小規模以下 +50 -15	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測なで標高値を算出する。度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を
3-2-6-8-2 半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	I -37	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -55 個々の測定値(X) 小規模以下 -64	1. 3次元データによる出来形管理にたきなナータにより、このでは、これでは、これででは、一名では、一名では、一名では、一名では、一名では、一名では、一名では、一	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -54 個々の測定値(X) 小規模以下 -63	本語画の この場合、基準高の には省略する。 この場合、基準高の には省略する。 この差とする。 この差とする。 この差とする。 この差とする。 この差とする。 この差とする。 この差とする。 この差にでは、 にして、 にして、 にでで、 にで、 にで、 にで、 にで、 にで、 にで、 に

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:	青字の部分)		訂正後(追記箇所:赤	宗字の部分)
3-2-6-8-3 半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	I -39	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -55 個々の測定値(X) 小規模以下 -64	1. 3次元データによる出来形管理において「レーザースキャナーを用いた出来形管理を実施する場合、計測を実施する場合、計測を実施する場合には計測を実施する場合には計測を変更を満たする場合には計測が含まれている。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生10mmが含まれている。 3. 計測は設計値を算出する。 3. 計測は設計値を算出する。 4. 厚さは、値下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さは、適下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標の目標の設計を表される場合を表される。	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -54 個々の測定値(X) 小規模以下 -63	1. 3次元データによる出来形管理において地上型レースキャナ事にが出来形管理を開いた出来形では出来形では出来形できる。 場合、計測は基準を実施は引きないる。 2. 個々の計測値の規格値には引きないる。 2. 個々の計測値の規格値には引きない。 3. 計測は設計幅員の内側全面と判別を度として生10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面と判別を度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚値との差で算出する。 5. 厚値との標高で算出する。 5. 厚値とで算出する。 5. 厚値とで算出する。 5. 厚値とで算出する。 6. 厚値との差とする。 5. 厚値とから表とする。 5. 厚値とする。 5. 厚値とから表とする。 6. 厚値とする。 6. 厚値とする。 6. 厚値とする。 7. 厚値とから表とする。 6. 厚値とする。 7. 厚値とから表とする。 7. 厚値とする。 7. 厚値とから表とする。 7. 厚値とする。 7. 厚値とする。 7. 厚値とする。 7. 厚値とから表とする。 7. 厚値とする。 7. 厚値とから表とする。 7. 厚値とから表とする。 7. 厚値とから表とする。 7. 原値とから表とする。 7. 原値とから表します。 7. 原植とから表します。 7. 原植とからます。 7. 原はをきます。 7
3-2-6-8-4 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	I -39	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -37 個々の測定値(X) 小規模以下 -46	1. 3次元データによる出来形管理において「タスキャナ」になったといて「連要では一点を基準に基準を実施する場合、計測管理を実施する場合を実施する場合には一点を実施する場合には一点を実施である。 2. 個々の計測値の規格値には計測を表して、一点を表して、一点を表して、一点を表して、一点をは、一点をは、一点を表して、表して、表して、表して、表して、表して、表して、表して、表して、表して、	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -36 個々の測定値(X) 小規模以下 -45	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーは舗装工事に対して、

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青雪	字の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	字の部分)
3-2-6-8-5 半たわみ性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	I -40	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 小規模以下 -26	1. 3次元データによる出来形管理において「サースキャナ」に基準に対しまる場合、そのを実施する場合、計測を実施を実施する。との計測を変更を実施する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全度として無値を変更がある。 4. 厚さは、値で標高値と当該層の標高値との差で算出する。 4. 厚さは、産びによる。 4. 厚さは、産びによる。 5. 以上とする。 5. 以上とする。 6. 以上とする。 6. 以上とする。 6. 以上とする。 7. 厚さを標高の目標高を変差として評価を変更を標高を変差とする。 7. 厚さを標高を変差とする。	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 小規模以下 -25	1. 3次元データによる出来形管理にを出来を対して、地上型レー領(舗装工事に対して、一切では、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して
3-2-6-8-6 半たわみ性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	I -41			1. 3次元デザーに大きな出来形管理にたき、スキャナーはは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな			1. 3次元 地上型 に を

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字の	の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	の部分)
3-2-6-9-1 排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	I -42	基準高▽	個々の測定値(X) 中規模以上 ±40 個々の測定値(X) 小規模以下 ±50 10個の測定値の平均(X10)*面管理の 場合は平均測定値の平均 中規模以上 - 10個の測定値の平均(X10)*面管理の 場合は平均測定値の平均 小規模以下 -	1. 3次元データによるまででは、 おいて、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、主に、	基準高▽	個々の測定値(X) 中規模以上 ±90 個々の測定値(X) 小規模以下 ±90 10個の測定値の平均(X10)*面管 理の場合は平均測定値の平均 中規模以上 +40 -15 10個の測定値の平均(X10)*面管 理の場合は平均測定値の平均 小規模以下 +50 -15	1. 3次元データンス (1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
3-2-6-9-2 排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	I -43	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X)中規模以上 -55個々の測定値(X)小規模以下 -64	1. 3次元データによる出来形管理によるナータによるナーリースを用して、といて、自動を変更を変更を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -54 個々の測定値(X) 小規模以下 -63	1. 3次元データによるスキャナータによるスキャナータによるスキャナータにが一人に対して、は、大力を表して、は、大力を表します。といったは、大力を表します。といったは、大力を表します。というでは、大力を表します。またも、大力を表しまりまりまります。またも、大力を表しまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字	の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	字の部分)
3-2-6-9-3 排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	I -44		個々の測定値(X) 中規模以上 -55 個々の測定値(X) 小規模以下 -64	1. 3次元データによる出来形管理にたきなど、「中華のでは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -54 個々の測定値(X) 小規模以下 -63	1. 3次元データによるコスキーではを出来形では、 地上型レーザ(舗装をする精神を対象を実施では、 に基づき出来形では、 に基づきとして、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは
3-2-6-9-4 排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	I -45		個々の測定値(X)中規模以上 -37個々の測定値(X)小規模以下 -46	1. 3次元データによる出来形管理によるよっとによって、 出来を用づした。 出来形管理を実計という。 2. として土10mmが 自動性では10mmが 自動性を表現している。 4. 厚値と を標高を表現で 自動性を表現で 自動性を表現して 自動性を表現で 自動性を表現る 自動性を表現を表現を表現を表現で 自動性を表現る 自動性を表現を表現を表現する 自動性を表現を表現を表現を表現を表現る 自動性を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現る 自動性を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現る 自動性を表現る 自動	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -36 個々の測定値(X) 小規模以下 -45	1. 3次元データによるスキャナータによるスキャナータによるスキャナ事による一人のでは、1 地上型と一手を開発を表して、1 では、1 では、1 では、1 では、1 では、1 では、1 では、1 では

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字)	の部分)		訂正後(追記箇所:赤雪	字の部分)
3-2-6-9-5 排水性舗装工(基層工)(面管理の場合)	I -46	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 小規模以下 -26	1. 3次元データによる出来形管理によるといったというでは、 1. 3次元データによるというでは、 2. 4. 厚直値とののでは、 2. 4. 厚直値とのでは、 2. 4. 厚直値とのでは、 2. 4. 厚直値とのでは、 2. 4. 厚直値とのででは、 2. 4. 厚直値とのででは、 2. 4. 厚直値とのででです。 3. では、 2. では、 2. では、 2. では、 2. では、 3. では、 4. 厚直値とのでです。 4. 厚直値とのです。 5. に関いては、 5. に関いては、 5. に関いては、 6. に関いに関いては、 6. に関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに関いに	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 小規模以下 -25	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザ(舗装工事におり」に出来形管理来形管理を実施する場合、計測に基づき出来が管理を実施する場合、計測になる。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として、 2. 他を主 4 mmが 含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面と判別で標として、 3. 計測はで標の出する。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. は、高を標の目標で算出する。 5. は、高を標の目標である。 5. は、高を標の目標である。 5. は、高を標の目標である。 5. は、高を標の目標である。 5. は、高をでいる。 5. は、このには、このには、このには、このには、このには、このには、このには、このに
3-2-6-9-6 排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	I -47			1. 3次元を開発を表現して、 おいて管理を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を			1. 3次元デ型ではを ボル上型 による一名によりでは、 ボルト型では、 ボルトでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルルでは、 ボルでは

箇所	頁数		訂正前(削除箇所:青字	₹の部分)		訂正後(追記箇所:赤字の部分)
3-2-6-10-1 透水性舗装工 (路盤工) (面管理の場合)	I -48	基準高▽ 厚さあるいは標高較差 t<15cm 厚さあるいは標高較差 t≥15cm	個々の測定値(X) ±50 測定値の平均 − 個々の測定値(X) −64 測定値の平均 −10 個々の測定値(X) −91 測定値の平均 −15	1. 3次元データによって、	基準高▽ t < 15cm 基準高▽ t ≥ 15cm 厚さあるいは標高較差 t < 15cm 厚さあるいは標高較差 t ≥ 15cm	個々の測定値(X) +90 -70 1.3次元データによる出来形管理測定値の平均 +50 -10 個々の測定値(X) ±90 用いた出来形管理要領(舗装工事 細)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測方法により調定値の平均 +50 -10 個々の測定値(X) ±90 関定値の平均 +50 -15 個々の測定値(X) ±90 出来形管理を実施する場合に適用する。 測定値の平均 +50 -15 2.個々の計測値の規格値には計測度として±10mmが含まれている。 3.計測は設計幅員の内側全面とし全ての点で標高値を算出する。計測度は1点/m2(平面投影面積当たり以上とする。 4.厚さは、直下層の標高値と当該の標高値と当該の標高値と当該の標高値と当該の標高値と当該の標高値と当該の標高値と当該の標高値と当該の差で算出する。 5.厚さを標高較差として評価する。 6は、直下層の目標高をとして評価する。 6との差とする。 ※歩道舗装に適用する。
3-2-6-10-2 透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	I -49			1. 3次元データによる出来形管理によって、まって、といって、はいて、生物では、はいるので、は、ないので、は、密を実施で、は、密を実施で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、		1. 3次元データによる出来形管理おいて「地上型レーザースキャナー用いた出来形管理要領(舗装工事編)」に基づき出来形管理要を実施する場合、その他本基準に規定する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測度として生4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし全ての点で標高値を算出する。計測度は1点/m2(平面投影面積当たり以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する合は、声で質して評価を含は、直下層の目標高を変更ででである。 5. 厚さを標高をでででである。 5. 厚さを標高を表でないます。 な、直下層の目標高を出する。 5. 厚さを標高を表でないます。 な、連びを表する。 ※歩道舗装に適用する。

箇所 頁数		訂正前(削除箇所:青字の	の部分)		訂正後(追記箇所:赤字	の部分)
3-2-6-11-1 グースアスファルト新装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合) I -50 I -50 I -50 I -50 I -50	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -37 個々の測定値(X) 小規模以下 -46	1. 3次に管理にたき本を実施では、1. 3次にできれるというでは、1. 3次にできれるというでは、1. 3次にできれるというでは、1. 3次にできれるというでは、1. 3次にできれるというでは、1. 3次にできれるというでは、2. 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、 4、	厚さあるいは標高較差	個々の測定値(X) 中規模以上 -36 個々の測定値(X) 小規模以下 -45	1. 3次「地来では、

箇所	頁数	訂正前(削除箇所:青字 <i>0</i>	D部分)		訂正後(追記箇所:赤字の部分)	
3-2-6-11-3 グースアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	I -52		1.3次元デーザー (1) (1) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4		おいて「地上型 用編とできる本をできる。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	幅員の内側全面とし、 値を算出する。計測密 での提高値と当該層 で算出する。 下層の標高値と当該層 で算出する。 較差として評価する場 目標高さから求まる高
8-1-9-5-2 鋼製堰堤本体工 (透過型)	I -101-①	堤長 L 格 ±50 堤長 Q 格・B・L ±10 堤幅W 格 ±30 堤幅w 格・A・B・L ±10 高さH 格・A・B・L ±10		堤長 ℓ 堤幅W 堤幅w		

箇所	頁数	訂正前(削除箇所:青字の部分)	訂正後(追記箇所:赤字の部分)
5 ガス圧接 施工前試験、施工後試験 外観検査 規格値		熱間押抜法以外の場合 ①軸心の偏心が鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。 ③ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径の1/4以下。 ⑤折れ曲がりの角度が2°以下。 ⑥著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがない。なお、(公社)日本鉄筋継手協会の技量検定試験の判定基準では、垂れ下がりは、6mm以下としている。 ⑦その他有害と認められる欠陥があってはならない。	熱間押抜法以外の場合 ①軸心の偏心が鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。 ③ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径の1/4以下。 ⑤折れ曲がりの角度が2°以下。 ⑤著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがない。 ⑦その他有害と認められる欠陥があってはならない。
26 コンクリートダム 材料 必須 骨材中の粘土塊量の試験 試験基準	II -30		工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。
36 溶接工 施工 必須 突合せ継手の内部欠陥に対する検査 規格値		なお、放射線透過試験による場合において、板厚が25mm以下の試験の結果については、以下を満たす場合には合格としてよい。 ・引張応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104附属書4(透過写真によるきずの像の分類方法)に示す2類以上とする。	試験で検出されたきず寸法は、設計上許容される寸法以下でなければならない。ただし、寸法によらず表面に開口した割れ等の面状きずはあってはならない。なお、放射線透過試験による場合において、板厚が25mm以下の試験の結果については、以下を満たす場合には合格としてよい。・引張応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104附属書4(透過写真によるきずの像の分類方法)に示す2類以上とする。・圧縮応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104附属書4(透過写真によるきずの像の分類方法)に示す3類以上とする。